PRODUCTS SHOWCASE

1 IBM 5530Z SX

2 日本マイコン おっとアニメ君

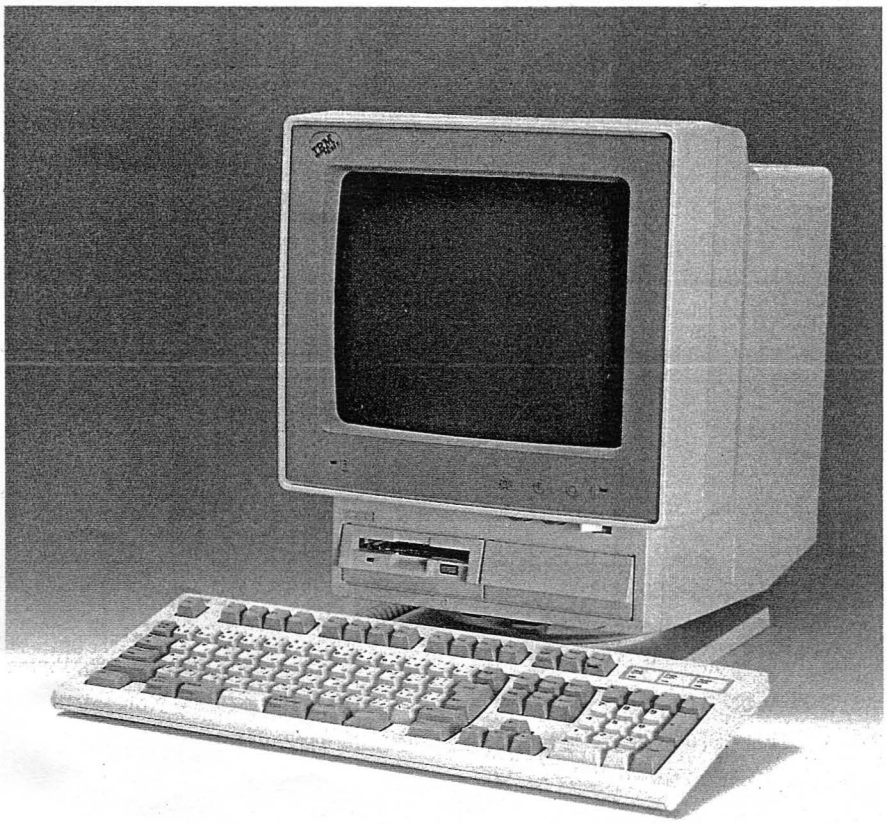
3 最新9600bpsモデム

4 Multiplan4.1

5 キャスト CG98フルコース

6 最新ノート型ワープロ

SHOW 1 CASE



日本IBMがパーソナル市場に本格参入

IBM PS／55Z モデル5530Z SXシリーズ

先月号の特集で紹介した日本IBMの「PS／55Zモデル5530Z SX」が編集部に届いた．以下では試用レポートを中心に紹介してみたい．

PS／55シリーズの素性

PS／55シリーズは，米IBMが販売中の「PS／2」シリーズに独自の日本語モードを追加したものである．そのため，英語モードと日本語モードとがあり，英語モードではPS／2と同じになり，日本語モードでは漢字表示などをはじめとした各種日本語処理に対応できる．

IBM PCをベースに日本語処理機能を追加した，いわゆる日本語PCに，PS／55の他にもAX, J-3100／3300, TheBOOKがあるが，PS／55はいくつか先進的な特徴を持っている．特に，複数デバイスの調停機能を持つ高機能バス「マイクロチャネル」を採用していることと，VGA(Video GraphicArray)という高解像度で多色表現が可能なビデオボードを標準で装備していることは重要だ．また日本語モードでは24ドットフォントの漢字を41字×25行表示できる点も見逃せない．

今回登場した「PS／55Zシリーズ」は，大企業などへのシステム販売が中心の「PS／55」シリーズを，個人／学生／小規模企

業などに販売するための新たなラインナップである．このため，従来の販売ルートの他，量販店で個人向けに店頭販売も行なう．もちろん，PS／55シリーズとは完全に互換性があるので，PS／55用のソフトウェアや周辺機器はすべて利用できる．その一方で価格はずっと抑えられ，個人向けのサポートセンターも新たに用意している．

CPUとメモリはPC-9801ES相当

PS／55Zモデル5530Z SX（以下ZSX）にはS02／S03／S06の3タイプがあり，S02ではFDDを2台，S03／S06では順に30／60Mbytesのハードディスクを装備している．S03／S06モデルについては，日本語DOSをインストールした状態で販売される．「SJ03／SJ06」のモデルもある．この場合，DOSそのもののパッケージもついてくるうえ，価格差（2万8000円）はDOSを単体で買う場合（4万円）より安い．すでにDOSを持っているというのでなければインストールずみのほうを買うのが便利だ．

これらのモデルは，ディスク容量を除いてスペックは同一である（**表1**）．

前から見るとZSXは，チルト台に乗ったテレビという印象である．386SXを搭載する高機能パソコンであるにもかかわらず，机の上に置いたときに，いかにもコンピュータがあります的なプレッシャーがない．前面のFDDは隠しようがないが，家庭内に違和感なく溶け込めそうなデザインといえよう．もちろん省スペース効果についてはいうまでもない．

チルト台上でマシンを360度回すことができ，上下にも振ることができる．会議中のプレゼンテーションなどでは，モニタを片手で容易に回せることのメリットは大きい．ロックレバーもついているので，自分専用に使う人は，最適な状態に固定すればよい．

HDDはIBM製で，平均アクセスタイム19msという高速なものだ．編集部に，PS／55モデル5550T（20MHz，130MbytesのHDD）があるので，NortonUtilitiesのSI（SystemInformation）でディスクアクセス速度を計測したところ，対PC／XT比で5550Tが3.5，ZSXは3.9と出た．一般に大容量HDDは高速だが，それよりも速いようだ．また，FDDも新しい製品を使っており，アクセス音がほとんど聞こえないくらいに小さくなっている．以前の製品の「音」を知っていると若干のショックを感じる．

キーボードは別売で，124キー，106キー，87キーの3種類が選べる．このうち106キーのものが，PS／2に変換キーなどを追加した標準的なタイプで，端末などに使用するのでなければこれで十分だろう．キーボードには，スピーカとボリュームがついており，日本語DOS Ver.4以降ではベル音をここから鳴らすことができるようになった．

本社が米国であるにもかかわらず，キー配置はJISに従っており，国産各機種とほとんど同じになっている．AXやJ-3100が米IBMと同じ配置になっていることを考えると，日本のマシンに慣れた人にはありがたい仕様である．

マウスは，従来の大型のマウスの他，国産品程度の大きさのミニーマウスが発売予定となった．

利用目的別にみた「即戦力調査」

マシンと同時に，**表3**にあげられるようなソフトが発売予定になった．有名どころも数多く，これらが予定どおりに揃えば，ユーザーとしては相当に魅力的なラインナップになるだろう．MS-Windows Ver.2.1の発売も予定されている．IBMはオフィス向けPS／55シリーズのOS／2化を進めており，Windowsは出さないの

表1　新製品の主なスペック

製品名	PS／55Zモデル5530Z SX
CPU	386SX（16MHz，0ウェイト）
メインRAM	2 Mbytes（マザーボード上で4 Mbytes，拡張スロットの利用で16Mbytes）
ビデオRAM	512Kbytes（表示拡張ボードの利用で1 Mbytes）
画面解像度	640×480ドット／26万2144色中16色（英語モード） 1024×768ドット／26万2144色中16色（日本語モード） 表示拡張キットにより，26万2144色中256色表示も可能
表示部	12インチカラーディスプレイ（標準装備）
文字フォント	24×24ドット（漢字），12×24ドット（半角文字）
外形寸法	320（W）×402（H）×408（D）mm
重量	18kg

各モデルの外部記憶装置およびOSの導入

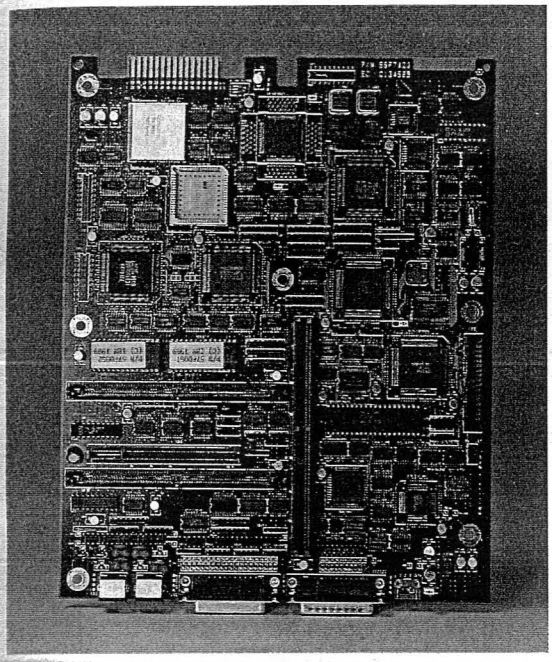
モデル	1.44Mbytes FDD	HDD	OS	価格
S02	2	オプション	なし	39万8000円
S03	1（オプションで2）	30Mbytes	なし	56万円
SJ03	1（オプションで2）	30Mbytes	あり	58万8000円
S06	1（オプションで2）	60Mbytes	なし	72万円
SJ06	1（オプションで2）	60Mbytes	あり	74万8000円

表2　主要な周辺ハードウェア

製品名	価格	出荷予定時期
1 Mbytesシステム・ボード記憶拡張キット	8万円	1989年11月29日
2 Mbytesシステム・ボード記憶拡張キット	14万円	1989年11月29日
80387SX／16MHz数値演算コプロセッサ	11万円	1989年11月29日
30Mbytes内蔵ハードディスク	20万円	1989年11月29日
60Mbytes内蔵ハードディスク	36万円	1989年11月29日
表示装置記憶拡張キット	7万円	1989年11月29日
ミニーマウス	1万5000円	1990年1月24日
3.5インチディスケット駆動機構III	5万円	1990年第1四半期

表3　主な発売予定のソフトウェア

製品名	価格	出荷予定時期
日本語MS-Windows Ver.2.1	2万円	1990年2月28日
Microsoft Excel Ver.2.1	9万8000円	1990年2月28日
日本語Guide Ver.2.0	5万円	1990年2月28日
VJE-β　Ver.2.5	1万8000円	1990年2月28日
日本語NortonUtilities Advanced Edition Ver.4.5	3万8000円	1990年2月28日
CANDY3	6万円	1989年12月15日
Technote	4万8000円	1990年1月29日
Z'sSTAFF TRAD	5万8000円	1989年12月15日
一太郎Ver.4	6万8000円	1989年12月15日
花子Ver.2	6万8000円	1989年12月15日



5530Z SXのメイン基盤．中央最上段が386SX，その左下に387SX用のソケットが見える．左側には2つ，横差しにする形でSIMMメモリカードのスロットがある．写真ではメモリをはずしてあるが，本来は片方に2 Mbytesが実装されている．

表4　ベンチマークテストの結果

機種名	5530Z SX	PC-9801ES
CPUとクロック	386SX（16MHz，0ウェイト）	
add16k	224	218
mul16k	1232	1233
nop32k	616	617
scrl1k	468	635
strout1k	275	136
合計	2815	2839

（単位・秒）

CPUとクロックが同一であるため，命令実行速度はほとんど変わらない．スクロールが数割早く出ているが，文字出力速度が約半分となっている．もっともこれは，ZSXが遅いというより，PC-9801のテキスト処理が際立って高速であるというべきだろう．

ではないかという見方もあっただけに嬉しい．以下では，ソフトウェアのジャンル別にZSXの環境をチェックしてみよう．

ワープロ

主なワープロには，IBM製の「DOS文書プログラム」と，ジャストシステムの一太郎，ダイナウェアのUP2シリーズがある．一太郎はVer.4（PC-9801版のVer.4.3相当という）が発売予定になった．日本語DOS Ver.4以降の環境ではZSXの拡張メモリをEMSメモリとして利用できるため，高価なメモリボードを買うことなく，一太郎の機能を最大限に利用できる．

どうしても新松が使いたい，FM秘書が好きだ，という向きには，まだまだワープロ環境は容認しにくいものがあるだろう．また，日本語入力FPも，キー操作の慣れや辞書の学習結果がからむだけに，乗り換えたくないものだ．幸いVJE-βが発売予定となっているなど見とおしは明るくなりつつある．

エディタ

PS／55用のエディタには，MIFESとBriefをあげることができる．Briefのほうは，そもそもマシンインディペンデントに近い設計ということもあり，スクロール，カーソル移動などはPC-9801版に匹敵するものだ．MIFESは，さすがにPC-9801版ほどの超高速スクロールはしないものの，十分快適な速度で動作する．この2つはいずれもキーアサインの変更もきくので，他のエディタに慣れている人でも，キー定義さえすれば，当面そう支障なく使えるのではないだろうか．

表計算

表計算ソフトの移植率はよく，Excel（ただしMS-Windowsの移植待ち），Lotus 1-2-3，Multiplanが揃っている．多くのユーザーにとって問題のない環境といえるだろう．EMSメモリを標準で利用できるため，ワークシートサイズなどの点でも理想的な環境で利用することができる．

グラフィックス

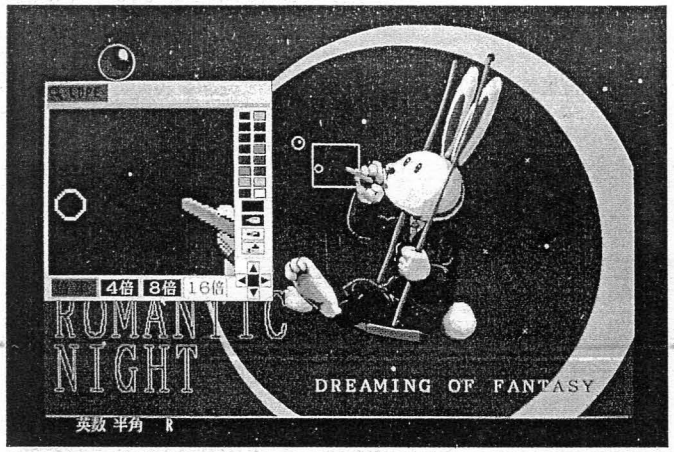
標準で26万色中16色というスペックは，グラフィックソフトを使う場合，それなりに効果的なスペックである．PC-9801シリーズの，640×400ドット／4096色中16色というスペックと比べると，解像度／色数ともに勝っている．また，ZSXはモニタが12インチとひとまわり小さい上に解像度が高いため，1ドットあたりの占める面積は，実にPC-9801シリーズを14インチモニタで利用した場合の1/4以下になる．そのため，タイリングをした場合，ドットが見えにくいために自然な感じの中間色を表示できる．

ちょうどZ'sSTAFF TRAD（ツァイト）が発売されたので使用感をお伝えしよう．このソフトは，メニュー上はPC-9801用のZ'sSTAFF Kidとほとんど同じものになっている．違いは解像度と，パレットが26万色対応になっていることだ．キャンバスが広くて，絵の具の種類が多いわけだから，絵を描く人には嬉しい．また，上で述べたように自然な中間色が表示できるため，グラデーションも綺麗に決まる．

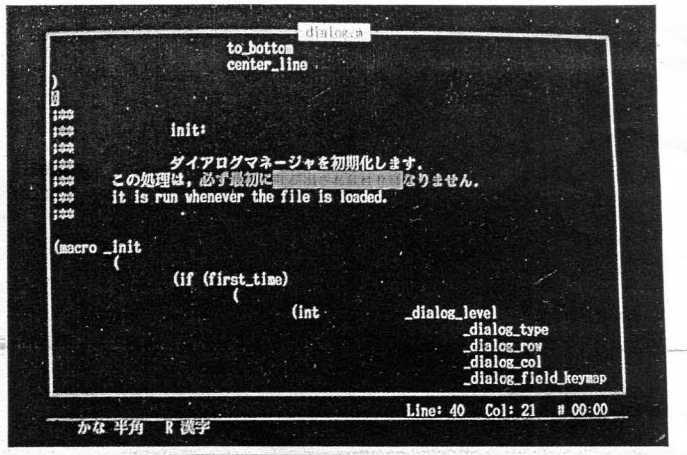
描画，ペイントなどの速度もなかなか高速である．ただ，同じ面積を塗りつぶす時間は，同クロックのPC-9801ESなどと比べると多少遅い．もっともドットの数が3倍多いのだから，これは仕方がないだろう．

グラフィックソフトではないが，CANDY 3も発売される．こちらは，チューンナップのノウハウがまだ蓄積されていないためか，PC-9801用のCANDY 4と比べると描画速度はかなり見劣りがする．

なお，英語モードにすれば，VGA用，MCGA用などのグラフィックソフト（Splash！など）が利用できる．これらの



Z'sSTAFF TRADの画面．ドットが非常に細かいため，中間色が綺麗に表現できる．26万色中16色のパレットが使えるのも魅力．



エディタの日本語Brief．日本語を表示させると24ドットフォントの美しさは圧倒的だ．ワープロの一太郎Ver.4も発売となった．

使い勝手や美しさも特筆すべきだ．

ミュージック

まず最初に必要なのはMIDIインターフェイスだが，ローランドが「MPU-IMC」を発売することになった．この製品は，同社がPC用に発売している「MPU-IPC」と互換性があるので，変にボードに依存したことをしているものを除き，IPC対応のソフトの動作が期待できる．

ZSXの音楽ソフトには，ダイナヴェアのPS／55用「BALLADE」などがある．BALLADEはPC-9801シリーズ用のベストセラーパッケージ「ミュージくん」とアッパーコンパチブルになっている．実際に使用してみたところ，内容はPC-9801版のBALLADEとまったく同じのようである．初心者にも使えるポピュラーなソフトがあるのは心強い．

もちろんアメリカなどでは，IBM PC用に本格的な音楽ソフトがたくさん発売されている．メッセージやマニュアルは英語になるが，日本と共通する専門用語が多いので比較的楽なはずだ．

また，アメリカのゲームなどでは，MIDI音源でBGMを鳴らすものがいくつも発売されている．この他，IBMからはCDクオリティの録音再生ができるオーディオボード，ビデオ信号のデジタイズなどが可能なビデオボードなどが発売されている．

ゲーム

現時点では，PS／55の日本語モード用のゲームというのはほとんど存在しない．ゲームをやるのであれば，英語モードにしてPS／2として使うことになる．

米国や欧州では，IBM PCは，AtariST，Amigaと並ぶ3大ゲームマシンの1つで，毎月リリースされるゲームの数はファミコンを遙かにしのぐ．とりわけフライトシミュレータはIBM PCのお家芸だ．国内でもPC用などのゲームを扱うショップは増えてきているので，雑誌広告などを探せば国内での入手も可能だ．もちろんCompuServeなどに加入すれば，オンラインでオーダーするという手もある．

最近のゲームは，VGAに対応したものも増えてきているが，ZSXは標準でVGAを装備しているので，たいていのゲームを，一番美しいモードで動作させられる．モニタが長残光性なので，動きの激しいゲームでは残像を気にする人もいるかもしれないが，VGAのグラフィックはそれを補って余りある．J-3100やAXが標準ではEGA（またはCGA）しか表示できないことを考えると，ゲーム機としても高性能なマシンである．

戦略価格ではないというが

PC-98XLが発売され，その24ドット表示の漢字を見たとき，これはすぐ次世代の標準になるという感慨を受けた方はいないだろうか．残念ながらソフトウェアの移植がもうひとつだったことや，何よりマシンが高価なこともあって，24ドットマシンは長らく陽の当たらないところにいた．

ところがZSXは，ディスプレイ／キーボード込みで42万8000円という低価格を打ち出した．現在24ドットの表示ができるMS-DOSマシンには，PC-98XL／RLやFMR-60／70，M700／800があるが，最も安いFMR-60FXでも43万5000円である．R-60のCPUが286であることを考えると，驚異的な安さだ（しかもXLにしろR-60にしろモニタは別売である）．

16ドットマシンと比較しても，386SXのマシンでは，PC-9801RS（39万8000円，メモリは640Kbytes，モニタは別売）よりも断然安い．ソニーのQuarterL（27万8000円）と比べても，メモリが1 Mbytes多いことと，モニタのことを考えると，ZSXのほうが割安なイメージがある．コストパフォーマンスでいえば，市場のパソコン中で一躍トップに踊り出たといえよう．

この価格で24ドットマシンが出てくると，今度こそ流れは変わるかもしれないという気がしてくる．24ドットマシンに話を限定した場合，各社が16ドットマシンとの完全な互換性を取り切れずにいる現在，ずっと24ドットで通してきたPS／55は，ソフト資産でも優位に立っているのである．（野口）